議　事　要　旨

|  |
| --- |
| 議　　　事　　　要　　　旨 |
| 会 議 名 | 徳島県がん診療連携協議会 情報提供･相談支援部会会議 |
| 日　　時 | 令和6年2月22日(木)　18:00～19:10　  |
| 場　　所 | Web会議 |
| 出席者 | 森根会長(徳島大学病院)、滝沢部会長(徳島大学病院)、日野委員(徳島市民病院)、安藤委員(徳島県立三好病院)、有馬委員(徳島県立海部病院)、漆川委員(徳島県鳴門病院)、井上委員(阿南医療センター)、竹谷委員(徳島保健所)、香留委員(患者会)、荒岡委員(徳島県介護専門員協会)、近藤委員(徳島県歯科医師会)、中村委員(徳島県薬剤師会)、鎌村委員(徳島県保健福祉部 代理:新開課長) |
| 欠席者 | 川端委員(徳島県立中央病院)、石倉委員(徳島赤十字病院)、藤原委員(阿波病院)、森委員(徳島県医師会)、林委員(吉野川医療センター)、 |
| 陪席者 | 徳島大学病院:横田副看護部長、尾形看護師長、近藤社会福祉士、秋月社会福祉士、高田看護師、池田医事課専門医療係長、宮越技術補佐員徳島赤十字病院：高木氏徳島県立三好病院：岡本氏徳島県保健福祉部：山田氏 |
| **議　 題**滝沢徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会長の指示のもと、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会をWeb会議で開催した。滝沢部会長から、本日の会議は事前にメールで送付している資料に基づき、議題に沿って進行していくとの説明があった。**【報告事項】****１．都道府県がん診療連携協議会　情報提供･相談支援部会報告について(報告資料①)**徳島大学病院近藤社会福祉士から、報告資料①に基づき都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議参加報告があった。1)今年度も都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議は2023年11月24日にWebで開催された。2)厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課より、新整備指針発出後1年経過しての変化と課題、PDCA実施状況チェックリストの今後の活用、検討等について説明があった。①アンケート結果の共有として、がん相談支援センターをがんと診断された方が一度は必ず訪問してもらう流れの構築は病院スタッフへの周知、連携強化などの取組が必要である。 ②各領域における具体的な取り組み状況とそこから見える課題、また情報提供体制の整備にあたり　スクリーニングが機能しないや必要な情報が患者に届いていないなどが課題であることなどが紹介された。3)がん相談支援センターのPDCA実施状況チェックリストの更新・進捗については、PDCAチェックリスト2023修正案で活用していく。都道府県がん診療連携協議会　情報提供･相談支援部会の詳細はURLを参照（[https://ganjoho.jp/med\_pro/liaison\_council/bukai/shiryo21/index.html)](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo21/index.html%29)　滝沢部会長から、第4期がん対策推進基本計画が令和5年3月に閣議決定され、外来初診時から治療療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問できる体制を整備することとなった。その他、相談者からフィードバックを得る体制の整備、アピアランスや妊孕性、がんゲノム医療などが課題となっている。すでに取り組まれている病院もあるが、参加委員から意見を伺いたいとの要望があった。香留委員から、第4期がん対策推進基本計画が発出され、徳島県内の施設でも取り組まれている　が、課題についてどのように考えているのかとの質問があった。　有馬委員から、とくしま療養サポートブックにがんと診断された時から、がん相談支援センターを活用しましょうと掲載して発行を行った。啓発のひとつとして医療の現場だけでなく、地域に広がれば、広報が出来るのではないかとの意見があった。　　滝沢部会長から、作成時から行き届いていない情報などを感じることはなかったのかとの質問があった。　有馬委員から、課題であるアピアランス、妊孕性、ゲノム医療、就労などの情報も取り入れている。医療従事者が相談時に、その内容にも触れて対応していただけると課題の解決にも繋がるのではないかとの回答があった。　徳島赤十字病院高木氏から、がん相談支援センターの周知については、外来の診察室にて看護師や受付など院内で周知をしている。また、がんと診断され何をしていいのかわからないとの患者さんがおり、患者さんに適したタイミングで周知を行うのがよいのではないかとの意見があった。　香留委員から、学会でもがん相談支援センターに必ず繋ぐことが難しいとの意見もあり、患者さんと医療従事者がどのタイミングがいいのか繰り返し話し合いすることで、糸口が見つかるのではないか、またかかりつけ医の医師等にもがん相談支援センターがあることを知っていただくことも必要ではないかとの意見があった。　滝沢部会長から、徳島市民病院では公認心理師が患者さんに付き添いがん相談支援センターまで案内されていると聞いているとの報告があった。日野委員から、当院で告知の診療終了後に公認心理師ががん相談支援センターまで案内を行い、心配ごと、困りごとなど心理面でもサポートを行っているとの報告があった。滝沢部会長から、とくしまがん療養サポートブックの活用について各病院の医師など認知されているのかとの質問があった。漆川委員から、外来にもおいてはいるが認知されておらず活用できていないとの回答があった。安藤委員から、外来に置いているが、非がん患者さんについても活用できる内容で掲載されているため、非がん患者さんにも配布を行い活用しているとの報告があった。徳島赤十字病院高木氏から、手に取られた患者さんから、表紙に県のマスコットすだちくんが掲載されており、信頼できる情報であるとの意見をいただいたとの報告があった。　**２．徳島県民がんフォーラム報告について(報告資料②)**森根会長から、報告資料③に基づき「徳島県民がんフォーラム2023実施報告者」について報告があった。1)令和5年10月29日(日)に徳島大学大塚講堂にて徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で集客開催を行った。なお、当日の模様を徳島県内のケーブルテレビで放映を行った。2)テーマは「安心してください～徳島県のがんサポート～」で内容は「第4期がん対策基本法と徳島県がん対策センターについて」をはじめ、とくしまがん療養サポートブック、サイコオンコロジー、薬物療法と神経ブロック、栄養サポート、がん患者さんの意思決定支援などについて講演を行った。3)最後にパネルディスカッションを行い、患者さんから事前にいただいた質問に回答した。4)参加者は292名、年齢は60代、70代の方の参加が多く内容についてはとても良かったとの感想が多かった。森根会長から、来年度以降も引き続き徳島県民がんフォーラム公開講座を行いたいとの要望があった。香留委員から、当日は参加を行ったが充実した内容であった。アンケートの結果、292人中196人からの回答があり、高い回答率である。アンケートの内容でがん検診を受けていない方が70人と多く、いいえと回答された方になぜ受けていないのか理由を知る機会があればよいのではないか、参加者からの感想が記載されており、徳島県のがん患者さんの傾向が見えてくればなおよいのではないか。また、当日は患者会にも触れていただき問合せもあった。一方で多田医師の講演中に、がんと診断されてすぐに患者会に行くのはあまりお勧めしないとの発言があったが、まずはがん相談支援センターへとの意味があったと思うが、患者会としても役割など考えていかなければいけないのではないかとの意見があった。滝沢部会長から、アンケート内容について今後検討を行いたいとの意見があった。**3．実務者のがん相談支援センター相談員研修等について(報告資料③)**　徳島大学病院秋月社会福祉士から、添付資料③に基づき「徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会実務者会」について報告があった。1)令和6年1月22日にオンラインにて医療機関だけの実務者会を開催した。実務者会は、地域の療養情報チーム、PDCAサイクルチーム、研修企画チームで構成されており、情報共有と現状報告を行った。2)各医療機関からの現状報告では、とくしまがん療養サポートブックの配布方法などについて報告があり、がんと診断された方全員に周知することが今後の課題である。3)とくしまがん療養サポートブックの見直しについて、一部修正を行いホームページには最新版を掲載している。大きな改定がある場合に第２版として発行を行うこととなった。4)PDCAサイクルについては、今年度まだ実施しておらず、近日中に各施設でチェックリストに沿って自己チェックを行い、相互チェックを行う予定である。5)研修企画については、「情報から始まる相談支援～地域展開版～」を2023年11月11日に香川県と共同開催を行った。四国ブロックでの各研修参加者数は徳島県からの参加者が少ない。6)来年度の指導者研修について、3名1チームとなるため各施設より募集を行いたい。　香留委員から、各施設で時間やマンパワーを課題に上げているがどの程度難しいのか、厳しい状況を教えていただければより良い方法を検討できるのではないかとの意見があった。　徳島大学病院秋月社会福祉士から、当院は近藤社会福祉士ががん相談支援センター専従として相談対応を行っている。他の社会福祉士は兼任となり入退院支援や、がん以外の患者の対応なども行っている。がん患者さん全ての方に関わるにはスタッフの人数では難しいとの回答があった。　徳島赤十字病院高木氏から、専従は高木氏と公認心理師が専任である。がん相談支援センターとして実務は２名である。その他のスタッフは兼務である。今後は工夫をしていかなければならないとの回答があった。　徳島大学病院秋月社会福祉士から、公認心理師が専従であるが人数的には厳しいとの補足があった。香留委員から、がん相談支援センターへ足を運ぶことを躊躇するのではなく、相談を受ける中で優先順位をつけることなど、患者会の中でも話を行いたいとの意見があった。滝沢部門長から、橋渡しをお願いしたいとの要望があった。**4．とくしまがん療養サポートブックについて**　　徳島大学病院宮越技術補佐員から、とくしまがん療養サポートブックは令和5年に2000冊作成を行った。また、同12月に500冊追加作成を行った。院内の各診療科診察室、がん相談支援センター、外来化学療法室などで配布している。その他、徳島県民がんフォーラム、がん診療連携センターフォーラム、ピンクリボン集会などイベントにて会場に設置をしている。また都道府県がん診療連携拠点病院として、市役所や医師会など要望があれば配布を行っているとの報告があった。　　滝沢部門長から、とくしまがん療養サポートブック作成時には徳島新聞に掲載し、周知を行った。今後も県民の方に広く知っていただくためにアイデアや工夫があれば連絡をいただきたい。各病院施設でも病院誌などにも掲載して周知いただきたいとの要望があった。　　　**【協議事項】****5.来年度事業計画について (実務者会)** 徳島大学病院秋月社会福祉士から、次年度事業計画について説明があった。1)PDCAサイクルについては、新しいチェックリストが完成すれば利用をして、病院間での相互チェックを行う。2)研修企画については、徳島県独自の研修が実施出来ておらず、企画を行う予定である。また、四国ブロックでの研修については、令和6年5月頃に四国ブロック会を開催し企画予定である。3)ウイッグなどの助成金事業が始まっている県などもあり、AYA世代についてもわかりづらく、四国内で情報共有を行えるシステムを構築してはどうかとの意見がある。**6.その他**滝沢部門長から、議題は以上であるがその他、意見や要望などないかとの質問があった。　徳島赤十字病院高木氏から、がんサロンについて令和2年2月から中止していたが令和6年2月より再開した。3月22日は小松島市役所地域推進課に協力と資生堂に協賛いただき、アピアランスケアについて当院で資生堂の方にお洒落講座としてがんサロンを行うとの報告があった　日野委員から、緩和ケア病棟は昨年11月より再開を行い、今年より他院の患者さんも受け入れ開始した。がんサロンについては、１年程前より再開しているとの報告があった。　安藤委員から、緩和ケア病棟は新型コロナウイルス感染症が5類感染症になる前より再開している。がんサロンについてはまだ行っていない。緩和ケア病棟を再開したことにより、在宅に移行される方が減り、最期まで緩和ケア病棟で過ごされる方が増えたとの報告があった。有馬委員から、地域の療養情報チームとしてとくしまがん療養サポートブックの作成に関わり、今年度はとくしまがん療養サポートブックをフォーラム等で県民に広く広報する機会を与えていただいた。海部郡医師会主催の市民講座でも配布を行った。県南でも浸透するよう取り組みたい。とくしまがん療養サポートブックは、ブラッシュアップに向けて手に取られた方の声を聴きたく、QRコードなどを利用してアンケートを行うのもいいのではないかとの意見があった。漆川委員から、化学療法室が６階の景色が見える場所へ移転した。チェア数も増加したため、少し余裕がある。連携などにより外来化学療法を行う場合は紹介いただきたいとの報告があった。井上委員から、令和5年6月より緩和ケア病棟を再開した。現在は満室状態となっている。がんサロンについては、令和6年2月に再開し、今後継続予定である。とくしまがん療養サポートブックは、外来での配布は充分に出来ていない。診断された方などにはがん相談支援センターに看護師・ソーシャルワーカー、心理士が在席しており、案内しているとの報告があった。徳島大学病院近藤社会福祉士から、がんサロンは令和5年9月より再開しており、現在は院内の患者さんのみと制限している。アピアランスについては、院内にある美容室に協力をお願いし、ウイッグの無料相談をしていただいている。また、がん患者教室などで装着方法など実演を交えて来年度に行う予定で企画中であるとの報告があった。　竹谷委員から、とくしまがん療養サポートブックは限られた病院でしか印刷を行っていなかったため、可能であれば保健所の窓口に設置したいとの要望があった。　　滝沢部会長から、活用していただきたいため、送付するとの回答があった。　　徳島県保健福祉部健康づくり課新開課長から、現場の医療従事者が普及啓発やとくしまがん療養サポートブック浸透について工夫されていることを実感した。健康づくり課でも普及啓発など協力をしたいとの意見があった。　　荒岡委員から、がんの患者さんが増えており在宅へ移行される方も多い。今後もがんの患者さんを支えていきたいとの意見があった。　　近藤委員から、周術期口腔機能管理でとくしまがん療養サポートブックの口腔ケアの記載が在宅歯科医療連携室となっているが、通院中でかかりつけ歯科医が居ない場合も紹介いただければ対応可能であるとの報告があった。香留委員から、患者会は昨年より再開しており、近年は電話相談が多くなっている。また、令和6年4月に患者会のあけぼの徳島、ネクサス・ジャパンとがん患者さん対象に講演会を開催する予定である。案内チラシが完成すれば、周知をお願いしたいとの依頼があった。滝沢部会長から、有意義な情報共有の会になったお礼と挨拶があり閉会となった。 |